

5 地域を創る

550億円 (対前年 +21億円)

- 美しい自然環境や多様な生態系・文化を後世に受け継いでいくための仕組みが必要
- 急激な人口減少に対応するため、和歌山県への新しい人の流れの創造が必要
- 道路網の整備や空港・港湾の機能強化など、交通ネットワークのさらなる充実が必要

「地域の活力・魅力」や「ひと・ものの流れ」を創り出す政策を強化

<p>活力と魅力 あるまちづくり</p>	<p>78.1億円 (対前年+28.4億円)</p> <ul style="list-style-type: none">増 南紀熊野ジオパークセンター建設工事 (+1.1億円)増 県立医科大学薬学部の整備 (+24.1億円)増 市街地再開発 (+3.9億円)	<ol style="list-style-type: none">1 「南紀熊野ジオパークセンター」を拠点とし、誘客を促進するためのネットワークを構築 (P59)2 外来生物による被害のまん延を防止するための取組を強化 (P60)3 歴史的価値のある建物の保存・活用を推進(P61)4 地域が必要とする人材の移住・定住を推進(P65)
<p>地域をつなぐ ネットワーク</p>	<p>472.2億円 (対前年▲7.1億円)</p> <ul style="list-style-type: none">減 和歌山橋本線等の整備完了 (▲11.6億円)増 都市計画道路(西脇山口線)等の整備 (+5.0億円) <p>「防災・減災、国土強靱化」として ⑩補正予算：134億円</p>	<ol style="list-style-type: none">5 経済活動の基盤となる道路ネットワークの整備 (P67)6 南紀白浜空港の国際線ターミナルビルの整備や大型クルーズ客船が着岸できる港湾整備を推進 (P27)

5 地域を創る

◇新規・拡充

◇継続

・金額単位のないものは千円単位

・（ ）内は昨年度当初予算額

活力と魅力のあるまちづくり

1.和歌山が誇る豊かな自然の継承

◇ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた取組の推進【再掲】

461,450 (349,921) P59

2019年7月に完成する南紀熊野ジオパークセンターを拠点とした研究・教育活動の強化と誘客の促進

◇外来生物対策の推進 9,026 (3,803) P60

地域の自然環境や県民生活に大きな影響を与える外来生物に対して、条例を制定し、被害のまん延を防止するための防除対策や啓発を強化

2.和歌山が誇る文化遺産や景観の保存・保全と活用

◇未来につなげる文化財次世代継承 30,288 (-) P61

歴史的価値のある建物等の保存・活用を推進することで、文化財を次世代へ確実に継承

◇歴史資料のデジタルアーカイブ構築 2,447 (1,625) P62

過去の和歌山を記録した写真や古文書をデジタル化し公開することで、歴史資料に広く親しむ機会を提供し、郷土の歴史研究等に寄与

3.賑わいのあるコンパクトな都市づくり

◇賑わいのある魅力的なまちづくり 41.0億円 (11.0億円) P63

賑わいと魅力あふれるまちづくりを推進するため、まちなか居住を誘導する市街地の再開発等を支援

◇空き家等対策の促進 21,842 (11,342) P64

物件の状態に応じた空き家対策を促進するとともに、衛生・景観等、地域住民の生活に影響を及ぼす未利用建築物の除却を支援

◇バス利便性向上促進【再掲】 63,190 (13,334)

バス利用者の利便性向上を図るため、交通系ICカードの利用を可能とするシステムを導入する路線バス事業者を支援

◇歩道整備の加速化【再掲】 25.1億円 (24.3億円)

歩行者の安全な通行を確保するため、利用状況や周辺環境に応じた整備手法を用いて、通学路など生活道路の歩道整備を加速化

4.個性豊かで暮らしやすい中山間地域づくり

◇持続可能なふるさと生活圏づくり 1,004 (1,144)

人口減少の中、地域での生活を守るため、ふるさと生活圏の維持や持続可能な地域公共交通ネットワークについて考える機会を創出

◇移住・定住大作戦 153,524 (147,417) P65

移住者等の情報発信力を強化するとともに、「わかやま暮らし」を希望する都市住民の移住を促進

5.交流人口等の増加による地域の活性化

◇和歌山県人会世界大会の開催 40,185 (-) P66

在外・県外の県人が一堂に会し、ふるさとを離れた方々の郷土への誇りを高め、県民との相互交流と県民の移民の歴史に対する理解を深める機会を創出

◇山東省友好提携35周年記念 10,303 (-)

中国山東省との友好提携35周年を記念して訪問団を派遣し、観光・経済などの各種交流を実施するとともに、両県省内友好都市間の交流を促進

地域をつなぐネットワーク

1.交通ネットワークのさらなる充実

◇道路ネットワークの整備

324.7億円〔③〇補正122.6億円〕(326.3億円) P67

企業立地や産業振興、活力ある地域づくりなど将来のチャンスを保障するものとして、また、大規模災害への備えとして、高速道路等の整備を推進

- ・高速道路ネットワーク等の早期整備
- ・県内外の一体的発展に寄与する幹線道路の整備推進
- ・都市内道路及び基本的生活に不可欠な道路の整備推進
- ・構想路線の具体化
- ・緊急輸送道路等の通行確保
- ・橋梁等の老朽化対策

◇自転車通行空間の確保 252,000 (545,450)

自転車道の専用化、直線化などサイクリングロードの整備を推進するとともに、“まちなか”における自転車、歩行者の分離された通行空間を確保

◇道路異常等通報システムの導入 3,800 (-) P68

道路の破損状況や不法占用状況等に迅速に対応するため、スマートフォン等のGPS機能とカメラ機能を利用し通報できるシステムを導入

◇南紀白浜空港活性化 72,799 (52,181) P27

南紀白浜空港運営事業者と協働し、搭乗者数増加による交流人口の拡大に取り組むとともに、国際線ターミナルビルの整備を推進

◇クルーズ客船の寄港促進 341,848 (283,325) P27

大型クルーズ客船に対応した港湾整備を着実に進めるとともに、和歌山県クルーズ振興協議会による外航クルーズ客船の誘致活動を実施

ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた取組の推進

平成31年度：461,450千円
(349,921千円)

「南紀熊野ジオパーク」のユネスコ世界ジオパーク認定に向け、南紀熊野ジオパークセンターを拠点とした研究・教育活動の強化と誘客の促進

拠点整備

ジオパークの情報発信や調査研究活動の拠点となる
「南紀熊野ジオパークセンター」が2019年7月完成予定

研究・教育活動の強化

① 研究助成

ジオサイト等を対象とした地質学、地球物理学などの分野で、
国際的な研究発表が期待できる活動に対し研究費を助成

② 教育活動推進

南紀熊野の大地の成り立ちや歴史文化等を内容とする
テキストを、県内すべての中学校に配布し、授業等で活用

誘客の促進

南紀熊野ジオパークセンターを拠点とした串本町内周遊
バスなど、誘客を促進するためのネットワークを構築



南紀熊野ジオパークセンターのイメージ図

【南紀熊野ジオパーク】

新宮市、白浜町、上富田町、
すさみ町、那智勝浦町、太地町、
古座川町、北山村、串本町及び
奈良県十津川村の一部のエリア



南紀熊野ジオパーク

ユネスコ世界ジオパークの認定へ

外来生物対策の推進

平成31年度：9,026千円
(3,803千円)

地域の自然環境や県民生活に大きな影響を与える外来生物に対して、条例を制定し、被害のまん延を防止するための防除対策や啓発を強化

和歌山県外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する条例(仮称) **新規**

※平成31年2月議会に上程

- 外来生物の野外への放出・植栽・は種の禁止
- 生態系等に被害が生じ、又は生じるおそれがあり、そのまん延を防止する必要がある外来生物の防除
- 販売者は客に対し、外来生物の放出等で生じる被害の防止について説明する努力義務
- 県による外来生物の被害等の情報収集・県民への普及啓発

○防除プロジェクト:今対策を行わないと駆除・根絶が困難になる外来生物を防除

調査・計画策定

駆除



タイワンジカ



クリハリリス



アメリカカンザイシロアリ



アフリカツメガエル

根絶・被害のまん延防止

○啓発プロジェクト:外来生物に対する県民の理解を深めるための啓発

- ・外来生物に関する学習会や研修会の開催
- ・外来生物による被害状況等を県民に広く啓発するためのチラシ作成・配布

未来につなげる文化財次世代継承

平成31年度：30,288千円 **新規**

歴史的価値のある建物等の保存・活用を推進することで、文化財を次世代へ確実に継承

1. 歴史的建造物[※]の調査・保存

- データベース作成
県内全域を調査し、情報共有
- 何でも相談室の設置
所有者からの文化財的価値や維持管理の相談に対応

3. 近代の文化遺産の調査・保存

近代の産業遺産、土木遺産等の
所在調査・詳細調査を実施
⇒ 調査報告書刊行、
文化財指定を促進

※ 歴史的建造物
概ね建築後50年を経過し、
指定文化財・国登録有形
文化財になる価値がある
建造物

2. 所有者及び市町村に対する支援

保存活用方針検討委員会

支援の必要な文化財の保存・活用のために調査を実施し、審査

所有者等支援

国登録有形文化財となっている建物について、保存に係る修理費用の一部を補助（上限100万円）

市町村支援

重要文化財クラスの建造物で、所有者が維持困難となった物件を市町村が公有化する費用の一部を補助（取得費の50%を補助）



歴史資料のデジタルアーカイブ構築

平成31年度：2,447千円
(1,625千円)

過去の和歌山を記録した写真や古文書をデジタル化し公開することで、歴史資料に広く親しむ機会を提供し、郷土の歴史研究等に寄与

平成30年度

- 文書館蔵資料からコンテンツ作成
- 和歌山県歴史資料アーカイブ ページ開設 (H30.12月 運用開始)

平成31年度～

他施設が保有する写真等の調査及び収集

ウェブ公開

整理・コンテンツ作成



建設中の和歌山県庁舎

ひと

つばと

いのち

くらし

地域

賑わいのある魅力的なまちづくり

平成31年度：41.0億円
(11.0億円)

賑わいと魅力あふれるまちづくりを推進するため、まちなか居住を誘導する市街地の再開発等を支援

まちなか居住を誘導する市街地再開発

◆市街地再開発を支援

1 和歌山市駅前地区

市民図書館・商業・ホテルを整備

(2020年完成予定)



2 友田町四丁目地区（和歌山駅周辺）

病院・商業・住宅を整備

(2020年完成予定)

3 北汀丁地区（和歌山城周辺）

住宅・老人ホーム・美容専門学校を整備

(2020年完成予定)

大学のまちなか回帰

◆和歌山市中心部に専門職を養成する大学を誘致・整備

1 東京医療保健大学和歌山看護学部

(2018年4月開設)

2 和歌山信愛大学教育学部

(2019年4月開設予定)

3 宝塚医療大学和歌山保健医療学部（仮称）

(2020年4月開設予定)

4 和歌山県立医科大学薬学部

(2021年4月開設予定)



和歌山県立医科大学薬学部



和歌山信愛大学教育学部

空き家等対策の促進

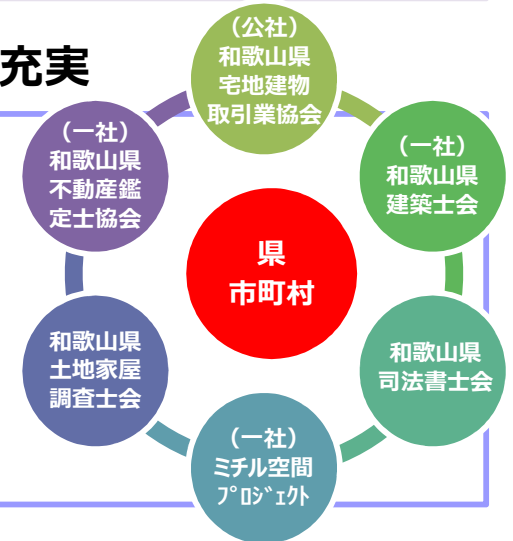
平成31年度：21,842千円
(11,342千円)

物件の状態に応じた空き家対策を促進するとともに、衛生・景観等、地域住民の生活に影響を及ぼす未利用建築物の除却を支援

1 空き家対策

▶ 各分野の専門家と連携した相談体制を充実

- ① 中古住宅の流通 ▶ 「どんどん使う」
インスペクション（建物状況調査）の普及・啓発
- ② 空き家適正管理 ▶ 「そのままキープ」
空き家所有者への適正管理に関する啓発活動
- ③ 管理不十分な空き家の除却・修繕 ▶ 「新しく使う」
特定空家等判断基準により市町村が対策を推進



2 未利用建築物の除却・跡地活用 **新規** ▶ 一定規模以上の未利用建築物の除却を支援

年数	3年以上未利用状態
地域	文化財、ジオサイト、サイクリングルート沿い等
規模	延べ床面積及び敷地面積 500㎡以上
用途	非住宅
跡地要件	地域活性化のために10年以上利用
所有者負担	1/5（市町村1/5 県1/5 国2/5）



防災ポケットパーク

ひと
しごと
いのち
くらし

地域

移住・定住大作戦

平成31年度：153,524千円
(147,417千円)

移住者等の情報発信力を強化するとともに、「わかやま暮らし」を希望する都市住民の移住を促進



移住・定住を希望する人

情報発信・相談・訪問

- 1 ホームページ「WAKAYAMA LIFE」
- 2 東京・大阪・和歌山に常設相談窓口
- 新規** 3 **公募型移住者選抜**
- 4 現地体験ツアー
(首都圏移住希望者は片道交通費助成)
- 新規** 5 **移住者情報発信力強化プロジェクト**

地域における強力なサポート体制

- 1 全市町村がワンストップパーソンを配置
- 2 受入協議会（地域住民等）による手厚い支援

「暮らし」「しごと」「住まい」の支援

- 拡充** 1 移住者の起業・継業支援（最大400万円）
- 2 農林水産就業への支援（最大50万円）
- 3 県統一版「空き家バンク」による空き家情報の提供
- 4 空き家の家財道具撤去費の助成（最大10万円）
- 5 空き家改修の補助（最大80万円）

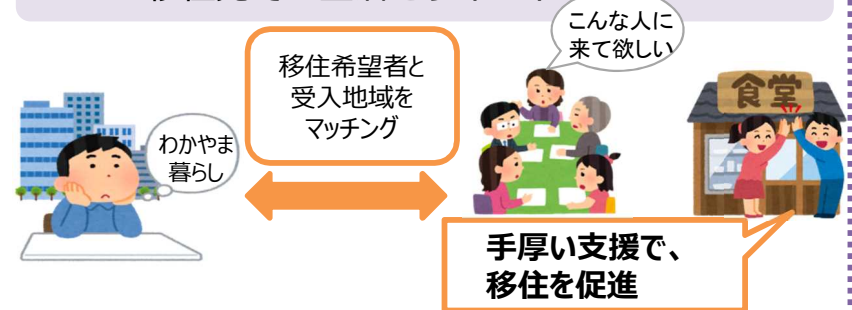
移住・定住へ



公募型移住者選抜

地域が必要な人材を公募し選抜会でマッチング

- 1 地域に必要な人材を県が取りまとめ
- 2 選抜会を開催し、移住希望者と受入地域をマッチング
- 3 移住先での生活をサポート



移住者等の情報発信力を強化

移住者情報発信力強化プロジェクトの実施等により、SNSやウェブサイトを活用した移住者等の地域情報の発信力を強化



ひと
こ
い
の
ち
く
ら
し

地
域

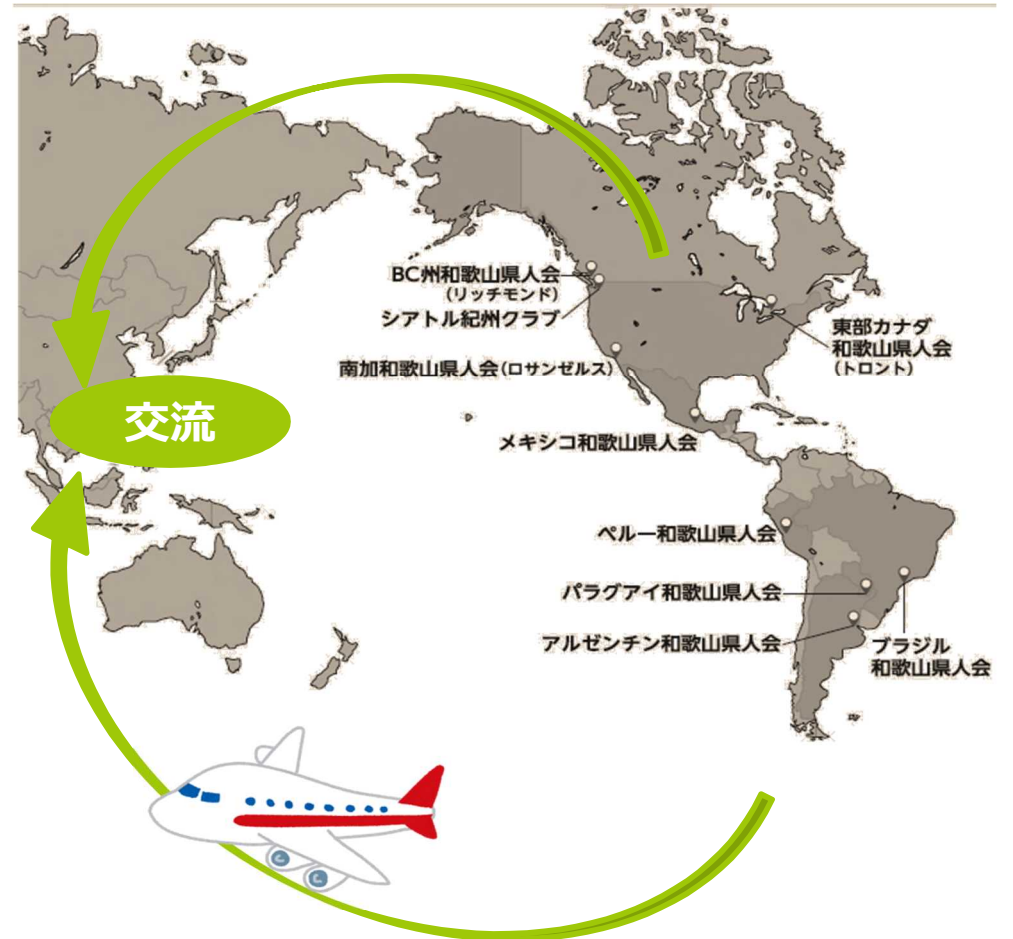
和歌山県人会世界大会の開催

平成31年度：40,185千円 **新規**

在外・県外の県人が一堂に会し、ふるさとを離れた方々の郷土への誇りを高め、県民との相互交流と県民の移民の歴史に対する理解を深める機会を創出

和歌山県人会世界大会の概要

1. 開催予定日：2019年11月下旬
2. 参加予定団体：
 - 海外県人会
 - 南加和歌山県人会（アメリカ）
 - ブラジル和歌山県人会（ほか）
 - 国内県人会
 - 在京県人会、東海県人会、近畿の各県人会
3. 内容（予定）：
 - 記念式典の開催（移民の歴史紹介や、県人会の表彰）
 - 和歌山体験ブースの設置
 - 歓迎レセプションの開催
 - 和歌山里帰りツアーの開催（文化体験、各地域での交流会の開催）
4. 参加予定者数：約1,500人



道路ネットワークの整備

平成31年度 : 324.7億円
 平成30年度補正 : 122.6億円
 (326.3億円)

企業立地や産業振興、活力ある地域づくりなど将来のチャンスを保障するものとして、また、大規模災害への備えとして、高速道路や県内幹線道路等の早期整備を推進

1 地域をつなぐ道路網の整備

① 高速道路ネットワーク等の早期整備

- ▶ すさみ串本道路、串本太地道路、新宮紀宝道路
- ▶ 有田IC～南紀田辺IC間の4車線化
- ▶ 国道42号冷水拡幅、有田海南道路、田辺西バイパス など

② 県内外の一体的発展に寄与する幹線道路の整備推進

- ▶ 国道168号五條新宮道路（相賀高田工区）
- ▶ 国道370号（美里2バイパス、美里4工区）
- ▶ 国道371号（新紀見トンネル）
- ▶ 南港山東線（西浜3丁目～関戸1丁目） など

③ 都市内道路及び基本的な生活に不可欠な道路の整備推進

- ▶ 松島本渡線・岡田大野中線（和歌山市冬野～海南市井田） など

④ 構想路線の具体化

- ▶ 京奈和自動車道の第二阪和国道への延伸、（仮称）京奈和関空連絡道路

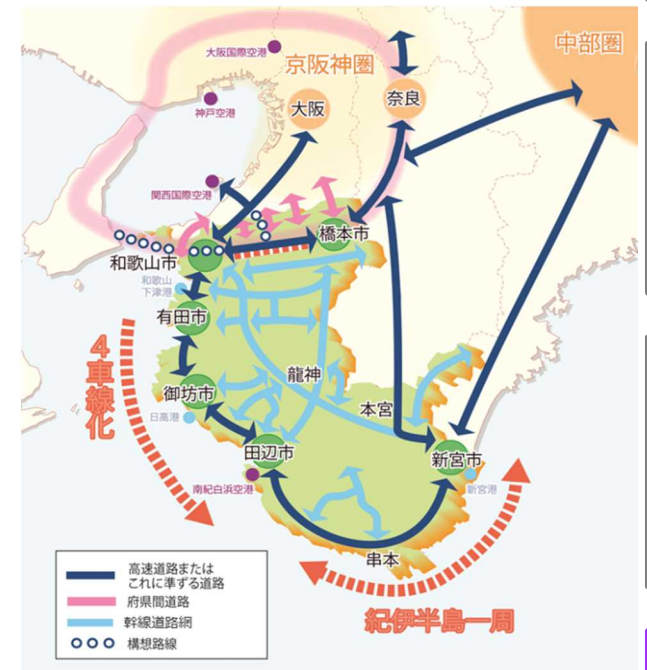


有田IC～南紀田辺IC間4車線化



国道371号（新紀見トンネル）

「ひと」・「もの」の流れを活性化する交通ネットワーク



2 災害に備えた道路網の強靱化

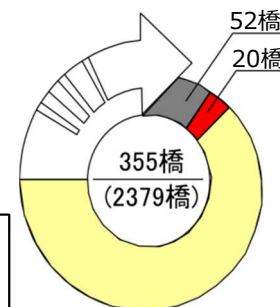
① 緊急輸送道路等の通行確保

- ▶ 橋梁の耐震化、地震、風水害に対する法面強化

② 橋梁等の老朽化対策

- ▶ 事故防止及び機能維持のための老朽化・長寿命化対策等

【橋梁の老朽化対策】



補修前



補修後

県道 大崎加茂郷停車場線 朝日橋（海南市）

ひと
くらし
いのち

地域

道路異常等通報システムの導入

平成31年度：3,800千円 **新規**

道路の破損状況や不法占用状況等に迅速に対応するため、スマートフォン等のGPS機能とカメラ機能を利用し通報できるシステムを導入

道路異常等通報システムの概要

【目的】

- 通報システムを導入することで、道路異常等への対応を迅速化する

【通報対象例】

- 道路異常（落石、路肩欠損等）
- 落下物、放置物
- 不法占用物件
- 不法投棄物件

【事業予定】

- 通報システムの導入
- 県民の方々に向けた周知活動

